

令和4年10月27日
(2022年)

家庭数

保護者の皆さまへ

千里みらい夢学園
吹田市立千里たけみ小学校
校長 今枝 かおり

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析について

中庭のキンモクセイが満開になり、日ごとに秋が深くなってまいりました。保護者の皆様には、平素より本校教育にご理解、ご協力いただきありがとうございます。

さて、今年度、6年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、既に個人の結果をお返ししております。その結果から本校の6年生における分析をいたしましたので、簡単ではありますが報告いたします。

吹田市では、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

本調査は小学校の最終学年を対象とした調査であり、教科も国語と算数、理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面です。このことを前提として、本調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に向けて具体的な取組を進めることが、本調査のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取組を進めるとともに、学校全体として学力向上につながる指導法の工夫改善を図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 国語に関する調査の分析

(1) 全体の結果 全国の正答率を上回り、良好な結果でした。

(2) 各領域における結果

話すこと・聞くこと

・全国値とほぼ同じ結果でしたが、一つの設問で全国値よりも低い結果でした。

書くこと

・全ての設問において、全国の正答率を上回る結果でした。

読むこと

・全ての設問において、全国の正答率を上回る結果でした。

(3) 国語科における成果と今後の改善点について

学年全体の正答数分布は、全国の分布状況と比べて低位層が少なく、高位層が多い結果となっており、良好な結果となっています。しかし、記述形式の無解答率が全国値と比較して高いことから、文章を書くことに抵抗がある児童が多く、問題を時間内に解くことが難しかったように思われます。

話すこと・聞くこと

全国値とほぼ同じ結果でした。必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることはできています。一方で、互いの立場や意図を明確にしながらいかに計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題があります。話すこと・聞くこと分野であっても、意見や考えを文章に書き表す指導に努めていきます。

書くこと

良好な結果となっています。文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができます。文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題があります。書いた文章を互いに読みあったり、自分が書いた文章を読み直したり、推敲する時間を増やしていきます。

読むこと

良好な結果となっています。登場人物の行動や気持ち、相互関係を叙述や描写を基に捉えることができます。また、人物像や物語の全体像を具体的に想像することもできます。これは全ての学年において読書活動に進んで取り組んでいる成果であると分析します。様々な種類の本に多く触れることができるよう、引き続き環境整備や指導を進めていきます。授業内でも、物語の主題や、情景描写など取り上げたいと思います。

2. 算数に関する調査の分析

(1) 全体の結果 全国の平均正答率を約大きく上回り、良好な結果でした。

(2) 各領域における結果

数と計算

- すべての設問において全国の正答率を上回る結果でしたが、一つの設問で正答率がほかの問題に比べ、低い正答率でした。

図形

- すべての設問において全国の正答率を上回る結果でしたが、一つの設問で正答率がほかの問題に比べ、低い正答率でした。

変化と関係

- すべての設問において全国の正答率を上回る結果でしたが、一つの設問で正答率がほかの問題に比べ、低い正答率でした。

データの活用

- すべての設問において全国の正答率を上回る結果でした。

(3) 算数科における成果と今後の改善点について

学年全体の正答数分布は、全国の分布状況と比べて、低位層が少なく、高位層が多い結果となっています。基礎的問題については授業内容や宿題、応用的問題については「千たけプリント」といった学校全体で組織的・継続的な取組により、成果が出ていると考えられます。

しかし、全国平均値よりは高い値ではあるものの、「変化と関係」領域に課題があります。また、理由を説明するような記述式の設問では、他の選択式や短答式に比べ正答率は高いものの無解答率が高く、低位層の文章力に課題がある結果であります。以下に、課題およびその改善点について記載します。

数と計算

「 85×21 の答えが1470より必ず大きくなることを説明した文を選択する」という設問において、正答率が51%と低値でした。これは、計算をした後に自分の答えが正答か誤答かを判断するための方法であり、このような計算を見積もる力は、計算ミスを減らすことにつながります。授業において、計算をする前に「計算の見積もりをしよう」などの声掛けによって、見積もる力を育てていきます。

図形

「示されたプログラムでかくことができる図形を選択する」という設問において、正答率が67%と低値でした。これは、プログラミングにまだまだ不慣れであるという現状とともに、図形を構成する要素の定着に課題があるためです。今後も益々プログラミングが必要な社会となることも予想されるため、授業におけるプログラミングのより積極的な導入や図形の要素に着目するような課題設定をすることで、課題を克服していきます。

変化と関係

「果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合は変化するか」という設問において、正答率が26.9%と低値でした。「割合」は、5・6年生における課題となる単元であり、毎年、課題克服に向けて学校全体として取り組んでいる単元であり、継続した取り組みを行っていきます。また、今回の問題文では、読んでその状況を精査せずに、直感で解答してしまうことによる誤答も多くみられました。問題文に対する読解力を育むために、しっかりと問題文を読みこみ、状況を把握することが求められます。授業においては、子どもたちが正確に読まないで解けない問題文を提示するなどの工夫をして、力をつけていきます。

データの活用

良好な結果となっています。日常生活場面でのデータを表に分類整理したり、考察することができています。他教科との関連を深め、資料を読み取り、データを活用する学習を進めていきます。

3. 理科に関する調査の分析

(1) 全体の結果 全国の正答率を上回り、良好な結果でした。

(2) 各領域における結果

『エネルギー』を柱とする領域

・全国値をやや上回り、良好な結果でしたが、一つの設問で全国値と同率の結果となっています。

『粒子』を柱とする領域

・全ての設問において、全国の正答率を上回る結果でした。

『生命』を柱とする領域

・全国値をやや上回り、良好な結果でしたが、一つの設問で全国値よりも低い結果となっています。

『地球』を柱とする領域

・全国値をやや上回り、良好な結果でしたが、一つの設問で全国値よりも低い結果となっています。

(3) 理科における成果と今後の改善点について

学年全体の正答数分布は、全国の分布状況と比べて低位層が少なく、高位層が多い結果となっており、良好な結果となっています。しかし、記述形式の無解答率が全国値と比較して高いことから、文章を書くことに抵抗がある児童が多く、問題を時間内に解くことが難しかったように思われます。

『エネルギー』を柱とする領域

光の性質を問う問題に課題が見られました。また、問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして記述するところにも課題が見られました。授業内で実験結果から読み取った変化を基に考察する時間を多く確保する必要があります。

『粒子』を柱とする領域

実験に使用する器具の名称とその扱い方については概ね理解できています。一つの実験結果から出てきた疑問や更なる課題を見つけようとする態度を大切にしていきます。

『生命』を柱とする領域

提示された資料から情報を読み取ることがよくできています。提示された資料から考察し、それを自分の言葉でまとめていくことも大切に指導にあたります。

『地球』を柱とする領域

天気と気温の変化の関係についてはよく理解できています。資料の必要箇所を見出し、考察していくところに課題が見られるため、グラフや表、それらが混ざり合ったものを読み取る時間を継続して確保していきます。

4. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

(1) 学習環境・生活環境等について

- ・「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」での肯定的回答は全国値を上回っています。ご家庭で子どもとルールを話し合い、利用できている事が分かります。
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」「自分には、よいところがあると思いますか」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」の3つの質問での肯定的回答は全国値を上回っています。学校とご家庭で協力して、自己肯定感や自尊心をさらに高めていけるよう、子どもたちを見守っていきます。
- ・「人が困っているときは、進んで助けていますか」での肯定的回答は全国値を下回っています。一方で「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」での肯定的回答は全国値を上回っています。自分の思いや願いを行動にうつすことに抵抗感を感じている児童が多いのではと分析します。
- ・「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」での質問では、「当てはまる」と回答した人の割合が全国値を上回っています。学習した内容を振り返り、もう一度考え直す習慣がついています。これからも、子どもたちにとって分かりやすく楽しい授業を行い、その過程も大切に授業に取り組んでいきます。

(2) 教科・学習について

- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」の設問に対して、肯定的回答は全国値を上回っています。引き続き、自分の考えを表現できる学習の場や機会を増やすとともに、コミュニケーション力の向上を様々な教育活動の中で図っていきます。
- ・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、一日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」での肯定的回答が全国値を上回っています。今後も、朝読書の時間や読書週間での取組等を通してさらに読書への関心意欲が高まる機会を作っていきます。
- ・「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」について、「週1回以上」・「月1回以上」という回答が多く、全国値を大きく上回っています。今後もiPadの端末を日常的かつ効果的に活用し、「個別最適な学び」の保障につなげていきます。

5. 今後の取組

「学力調査」においては、国語・算数・理科のほとんどの設問において全国数値を上回っており、日頃の学習や取組の積み重ねが成果として表れていると考えます。

一方で「学習状況調査」においては、「学習したことが、将来、社会に出た時に役に立つと思う」という質問にやや否定的な意見も見受けられました。今後も各教科の基礎基本の定着を図るとともに、児童が授業を通して何ができるようになったのか、自らの成長を実感したり、学んだことが社会とつながっていることを理解したりできるような授業づくりをしていきます。

また、児童が主体的に学びに向かうために、児童自ら問いを持ち、その問いの解決に向けて自ら進んで学習をしていけるように工夫していきます。さらに、児童同士が考えを伝え合い、学び合う授業の構築を進めていき、少人数指導・TTなどの学習形態の工夫やICT機器の効果的な活用を行うことで、「個別最適な学び」「協働的な学び」につながる学習指導を継続して実施していきます。

今後も児童一人ひとりの良さを生かしながら、保護者・地域の方々と協力する中で、教育実践に努めてまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。